



2015年4月1日

ジェットスター・ジャパン株式会社

ジェットスター・ジャパン、新経営体制を発表

ジェットスター・ジャパン(本社:千葉県成田市)は、経営体制に変更がありましたので以下のとおりお知らせいたします。

代表取締役社長の鈴木みゆきが辞任し、ジェットスターグループ日本支社長である片岡優(かたおか・まさる)が新たにジェットスター・ジャパンの代表取締役会長として、またオーストラリアのジェットスターグループのグループオペレーション本部長であるジェリー・ターナーがジェットスター・ジャパンの CEO として4月1日付で就任することが決定しました。

ジェットスターグループ日本支社長を務める片岡氏は、航空業界で30年以上の経験を有し、ジェットスターグループの日本での活動に中心的な役割を果たしてきました。

ターナー氏は、11年以上勤務したジェットスターグループの各エアラインで数々の要職を経てジェットスター・ジャパンに着任します。現在、グループオペレーション本部長として、日本、シンガポール、ベトナム、オーストラリアを含むアジア太平洋地域におけるジェットスターブランドのエアラインをサポートしています。

ジェットスターグループ CEO のジェイン・ハードリカは次のようにコメントしています。「経営陣の新体制は、ジェットスター・ジャパンの将来をより明るくするものと期待しています。片岡氏およびターナー氏がジェットスター・ジャパンのマネジメントに参画しリードすることを大変嬉しく思います。片岡氏は、日本のLCCのエキスパートであり、日本のマーケットを熟知しています。

また、ターナー氏は世界で最も豊富な経験を有するLCC経営者の一人です。航空業界で36年の経験を有しており、アジア太平洋地域および出身のアイランドを含む欧州で22年間に渡りLCCのビジネスに携わった経験があり、その豊富な経験をジェットスター・ジャパンで活かしてくれるものと信じています。

ジェットスター・ジャパンが新たな発展フェーズに入るにあたり、新しい経営体制が大いに貢献してくれることを期待しています。ジェットスター・ジャパンがマーケットリーダーとしてのポジションを強化していくなかで、片岡氏とターナー氏の経験はジェットスター・ジャパンに有益なものになると信じています。」

豪カンタスグループ、日本航空、三菱商事、東京センチュリーリースが出資するジェットスター・ジャパンは、日本最大のLCCで約60%のマーケットシェアを有しています。

2012年7月に就航したジェットスター・ジャパンは、現在エアバスA320を20機保有しており、国内外12都市20路線を運航しています。

グループ CEO のハードリカは、日本のマーケットにLCCを定着させようとする鈴木氏の過去3年半にわたるこれまでのコミットメントと情熱に感謝し、次のようにコメントしています。

「鈴木氏は、会社の立ち上げと国内線のネットワークの充実を成功裏におさめたほか現在も成長を続けるジェットスター・ジャパンにとって不可欠な存在であったばかりか、将来の成長への素晴らしい道筋をつけてくれました。

鈴木氏のリーダーシップの下、ジェットスター・ジャパンは国際線にも進出して LCC のリーダーとしての地位を確立し、国内第 4 位の航空会社にまで成長しました。

鈴木氏が会社を去るのは大変残念ではありますが、次のキャリアで更なるご活躍を祈念しています。また、この度会長から名誉会長になられる福川伸次様のリーダーシップおよび知見にもあらためて感謝申し上げます。」

鈴木氏自身も次のようにコメントしています。

「ジェットスター・ジャパンの社長に就任してから 3 年半もの間、会社を立ち上げ牽引する機会を得られたことはとても光栄なことでした。感慨深いのは、日本の航空市場で新しい需要を開拓して多くのお客様に低運賃での新しい空の旅を提供することができたことです。そして、お客様の安全を最優先としてさらに楽しいフライトを提供することに献身的でプロフェッショナルに徹した社員の皆さんと一緒に働くことができたことは、私にとってなりよりの宝物です。また、ジェットスター・ジャパン、そして私個人に対して、素晴らしい支援をしてくださった社員、株主、当局、パートナーの皆様には厚く御礼申し上げます。私自身もあらたな分野で次なる飛躍を目指しますので、ジェットスター・ジャパンも新たな経営陣と共に日本の LCC の第一人者としての確固たる地位を固めて更なる飛躍を成し遂げられるよう願っています。」

###